

# 26年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 1月20日～ 26年2月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は17社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合]×2+[「やや増加」の評価を行った回答の割合]-[「減少」の評価を行った回答の割合]×2-[「やや減少」の評価を行った回答の割合]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### ア. 国産材

#### (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	25.0	45.8	45.8
	ヒノキ	25.0	43.8	43.8
	カラマツ	50.0	△ 50.0	△ 100.0
	トドマツ	50.0	0.0	△ 75.0
消費動向	スギ	8.3	16.7	12.5
	ヒノキ	28.6	21.4	21.4
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	22.7	27.3	18.2
	ヒノキ	7.1	14.3	14.3
	カラマツ	50.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0

スギ及びヒノキ原木の入荷は増加傾向で推移、カラマツ及びトドマツは2月の増加が4月に向け減少に。

スギ及びヒノキ原木の消費は、増加傾向で推移、カラマツは2,3月の横ばいが4月には減少に、トドマツは2月の減少が3月の増加を経て4月には横ばいに。

スギ及びヒノキ原木の在庫は増加傾向で推移、カラマツは2月の増加が4月に向け減少に、トドマツは減少傾向で推移。

#### (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
スギ	△ 8.3	△ 20.8	△ 25.0
ヒノキ	△ 18.8	△ 43.8	△ 43.8
カラマツ	0.0	100.0	0.0
トドマツ	0.0	50.0	0.0

スギ及びヒノキ原木価格は弱保合ないし弱含みで推移、カラマツ及びトドマツは2月の保合が3月の強含みを経て4月には保合に。

### モニターからのコメント

#### (原木荷動き)

・スギ原木入荷は地域差あると思うが2～4月は全体的に横ばいからやや増加傾向で推移と予想。消費は生産落とさないため横ばい。・原木は、スギ、ヒノキ共に少ない。単価は、一時下がりに向かうも、また、年末と同値に戻る。量的に増えないと下がりに向かない。・スギ丸太は当社では先月同様順調に入荷。秋田県内製材所では先月よりも入荷量がやや増えてきている様子。丸太凍結のため消費量は2割くらい減も、注文増えているため早出、残業でカバーしている。在庫は先月より多少増加。・カラマツ、トドマツ原木の入荷始まったが運送車両不足が発生、3月中旬には凍結緩み搬出できなくなるが、それまでに運び出せるかが現状の課題。消費は3月までは多忙であるが4月以降若干減少と予想。外材価格が高い状況の中、それほど落ち込まないとの見方もある。需要が堅調で、在庫が増えないまま集材時期が終わりそうで、4月以降再び原材料不足で注文受けられないことも予測される。・トドマツ原木については1月には民間からの仕入れが増加、2月以降も民間からの入荷が鍵。1,2月は丸太が凍り挽き立て減少、3月からは気温上昇すると挽き立て増加する。自社工場の在庫は若干増加も、生産即出荷が続く。・スギ及びヒノキ原木については国有林の出材ピークだが雪の影響で2月よりも3月に多く出材されそう。相変わらず原木在庫増えないが、マーケットでの取り合いは多少落ち着いてきた様子。2月中の在庫積み増しは難しいが3月の出材に期待。・ヒノキ原木入荷は順調、消費も落ち着きつつある。・スギは多少、少なめ、ヒノキ原木は出材増えてきた。消費は特に変化なし。ヒノキ原木在庫は増加の見通し。・ヒノキ原木入荷及び在庫は天候・雪の状況に多分に左右される。3,4月の消費は今後の市況によって変更する予定。・「値が物を呼ぶ」のことわざ通りヒノキ丸太の出材もようやく増えてきた。中四国ではそれほどでもないが特に九州の出材が増加したとのこと。仕入れかなり増やしており、消費、在庫とも増加だが、スギは出材の関係でなかなか増やせない。

(原木価格) ・スギ原木は、丸太入荷と製品の動向にもよるが4月以降材質の問題でやや下落と予想。

・秋田県内ではスギ原木価格は、先月より若干安くなった気がするが、中目で17,000円/m3以上の値がついている。・カラマツ及びトドマツ原木の買入価格は2月に合板工場が買入価格改定を実施し、上昇している。・トドマツ原木は価格上昇は一旦ストップ。・スギ原木は高値横ばい。・スギ及びヒノキ原木は上がりすぎた分、今月後半から来月にかけて調整されると見ている。・スギ及びヒノキ原木は市場への出荷順調で価格下落を予想。・ヒノキ原木価格は、ヒノキ製品の荷動きと連動するか?。・ヒノキ丸太値下げは確実。・ヒノキ原木の県内価格は高すぎ、九州から価格下落の動きが広まるのではないかと予想。・2月旬よりヒノキ価格に少し落ち着きが出始める（他地区では急落との情報も）、春先に向け出荷が増えるにつれ更に下げかも。

## 26年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	スギ	4.5	13.6	9.1
	ヒノキ	14.3	14.3	14.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	25.0	0.0
出荷動向	スギ	9.1	4.5	0.0
	ヒノキ	14.3	△ 14.3	△ 14.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 18.2	0.0	4.5
	ヒノキ	0.0	8.3	33.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

スギ及びヒノキ製材品の生産は、やや増加傾向で推移、カラマツは2,3月の横ばいが4月には減少に、トドマツは2月の減少が3月の増加を経て4月には横ばいに。  
スギ製材品の出荷は、わずかに増加ないし横ばい、ヒノキは2月の増加が3,4月には減少に、カラマツは2,3月の横ばいが4月には減少に、トドマツは2月の減少が3月の増加を経て4月には横ばいに。  
スギ製材品の在庫は、2月の減少が4月に向けわずかな増に、ヒノキは2月の横ばいが4月に向け増加に、カラマツ及び

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	4.2	△ 4.2	△ 8.3
	柱角 KD12×3	8.3	△ 8.3	△ 8.3
	通し柱 12×6	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	桁角	0.0	△ 5.0	△ 5.0
	母屋角	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	タルキ	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	間柱	4.5	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	平割	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	△ 31.3	△ 18.8
	柱角 KD12×3	0.0	△ 31.3	△ 18.8
	土台角 10.5×4	△ 6.3	△ 18.8	△ 18.8
	土台角 12×4	△ 6.3	△ 31.3	△ 25.0
	通し柱 12×6	20.0	0.0	△ 10.0
	ラミナ	33.3	16.7	16.7
カラマツ土台角10.5×4		—	—	—
" 梱包仕組み板		0.0	100.0	50.0
" ラミナ		0.0	100.0	50.0
トドマツサンギ		—	—	—

スギ柱角は2月のやや強保合が3,4月やや弱保合に、通し柱、桁、母屋、タルキ、ヌキ及び平割りはやや弱保合で推移、間柱及びラミナは、ほぼ横ばいで推移。

ヒノキ柱は2月の保合が3,4月は弱保合に、土台はやや弱保合ないしやや弱含みで推移、通し柱は2月のやや強保合が4月に向けてやや弱保合に、ラミナはやや強保合で推移。

カラマツ梱包仕組み板及びラミナは2月の保合が3,4月は強含みに。

## モニターからのコメント

(製材品荷動)・スギ製材品は生産を落とさず在庫の積み増しする。出荷は、プレカット工場の状況を見ても3月以降落ち着くと思われる。・スギ製材品は先月同様乾燥材の注文が増えており、今後もこの傾向続くと思われる。当社では4月に高温乾燥機1基増設の予定。県外出荷増えているが、凍結により生産量落ちており、納期等をずらしてもらっている。出荷量は平年並み。在庫は増やしたいが、注文材への対応で一杯で変わらず。・カラマツ及びトドマツ製材品は現在もフル生産体制のまま3月まで現状推移、産業用途は4月には落ち着くかも知れないが、バックオーダーもあり堅調に推移すると予想。・トドマツ製材品はフル生産。生産即出荷が続き、在庫ゼロの状態続く。・スギ及びヒノキの原板在庫もかなり少ないので原木確保できれば増産したい。構造材は徐々に落ち着きを取り戻しており、特にヒノキはかなり余っていると見ている。未だ受注残があるので在庫は増えないが、3月に潮目変わると見る。・スギ及びヒノキ製材品は凍結のための減産が増産に移行する季節で価格下落防止のため出荷をセーブ。在庫積み増しを計画。・ヒノキ製材品生産は残業するほどではない、新規受注に目立った動きはなく、出荷はおおむね順調。・スギ及びヒノキ製材品生産は特に変化なし。ヒノキ製材品の出荷は減速している、在庫も増えてきた。・3,4月のヒノキ製材品の生産については2月後半の状況によって変更がある。出荷は3,4月は減少と思う。・可能な限り生産増やす努力しているが、人員の関係で増えない(従業員募集中)。プレカット工場等一時の勢いは無いが相変わらず順調な荷動き。但し一部にかげりが見え始めた。乾燥機を3台増設し、製品で300m3/月乾燥能力をアップした。からの在庫を積み増ししたい。

(製材品出荷価格動向) ・スギ製材品の出荷価格は、原木価格と製品需要にもよるが弱含みと予想。

・ヒノキ、スギ共に丸太不足により製材品出荷少ない。引合い弱まるも底かたい感じがある。今後の動向は原木出材量のみか？

・スギ製材品出荷価格は、2月に入り3,000～4,000円/m<sup>3</sup>で価格改定し、取引先への単価を上げている。

・カラマツ及びトドマツ製材品出荷価格は2月の原料価格上昇に伴い3月には再び製材価格改定を実施、4月には更に上がるかもしれない。

・エゾマツサンギは販売先から値上げの話も出てきたが、値上げしても生産量は変わらない。

・スギ製材品出荷価格は高値横ばい。

・スギ構造材は来月頃から調整が入り、下地・羽柄は影響少ないと見る。ヒノキ構造材は既に調整下げが出ている、大崩はないが3月までは調整局面と思う。

・スギ柱は価格安定させるため出荷セーブ、4m材、母屋、桁は出材不足のため価格安定、ラミナは集成材・間柱受注増のためやや上昇。ヒノキ柱はやや価格下落の見通しだが出荷セーブの予定。スギ集成管柱10.5角及びヒノキ集成管柱10.5角は、引き合い増で価格若干上昇の見通し。

・ヒノキ製材品は落ち着いている。・スギ製材品は不足感が残っている。ヒノキ製材品は取引先か

## 26年2月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	50.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	100.0	△ 50.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木の仕入れは、2,3月の横ばいが4月には減少に。  
NZラジアータ原木の仕入れは、増加傾向で推移。

米マツ原木の消費は、2月の横ばいが3月の減少を経て4月には増加に。  
NZラジアータ原木の消費は増加傾向で推移。

米マツ原木の在庫は、2月の横ばいが3月の増加を経て4月には減少に。  
NZラジアータ原木の在庫は、減少傾向で推移。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木及びNZラジアータ原木の購入価格は、共に2,3月の強含みが4月には横ばいに。

## モニターからのコメント

## (原木荷動)

・NZラジアータ丸太は、消費増税前の注文激増、3月までは需要に追いつかない状況。

## (原木購入価格)

・NZラジアータ丸太は、2,3月着船共にFOB価格上昇、合計でUS8\$アップ。

26年2月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
米マツ製材品	0.0	△ 50.0	50.0
NZラジアータ製材品	100.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
米マツ製材品	△ 50.0	0.0	50.0
NZラジアータ製材品	100.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

米マツ製材品の生産は、2月の横ばいが3月の減少を経て4月には増加に。NZラジアータ製材品の生産は、増加傾向で推移。  
米マツ製材品の出荷は、2月の減少が4月に向けて増加に。NZラジアータ製材品の出荷は、増加傾向で推移。

米マツ製材品の在庫は、2,3月の増加が4月には横ばいに。NZラジアータ製材品の在庫は、減少傾向で推移。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
米マツ平角	50.0	0.0	0.0
米マツ正角	50.0	0.0	0.0
米マツ小割	50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	100.0	100.0	0.0
NZ梱包材(割角)	100.0	100.0	0.0
NZ土木用材	50.0	50.0	0.0
その他	—	—	—

米マツ製材品の出荷価格は、いずれも2月の強含みが3,4月には横ばいに。

NZラジアータ製材品の出荷価格は、いずれも2,3月の強含みないし強保合が4月には横ばいに。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・NZラジアータ製材品は、消費増税前の注文激増、3月までは需要に追いつかない状況。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZラジアータ製材品は、2,3月着荷で、合計6,000円/m3の値上げを要請中。